

鳥取県の地震

2020年（令和2年）1月

鳥取地方気象台

目次

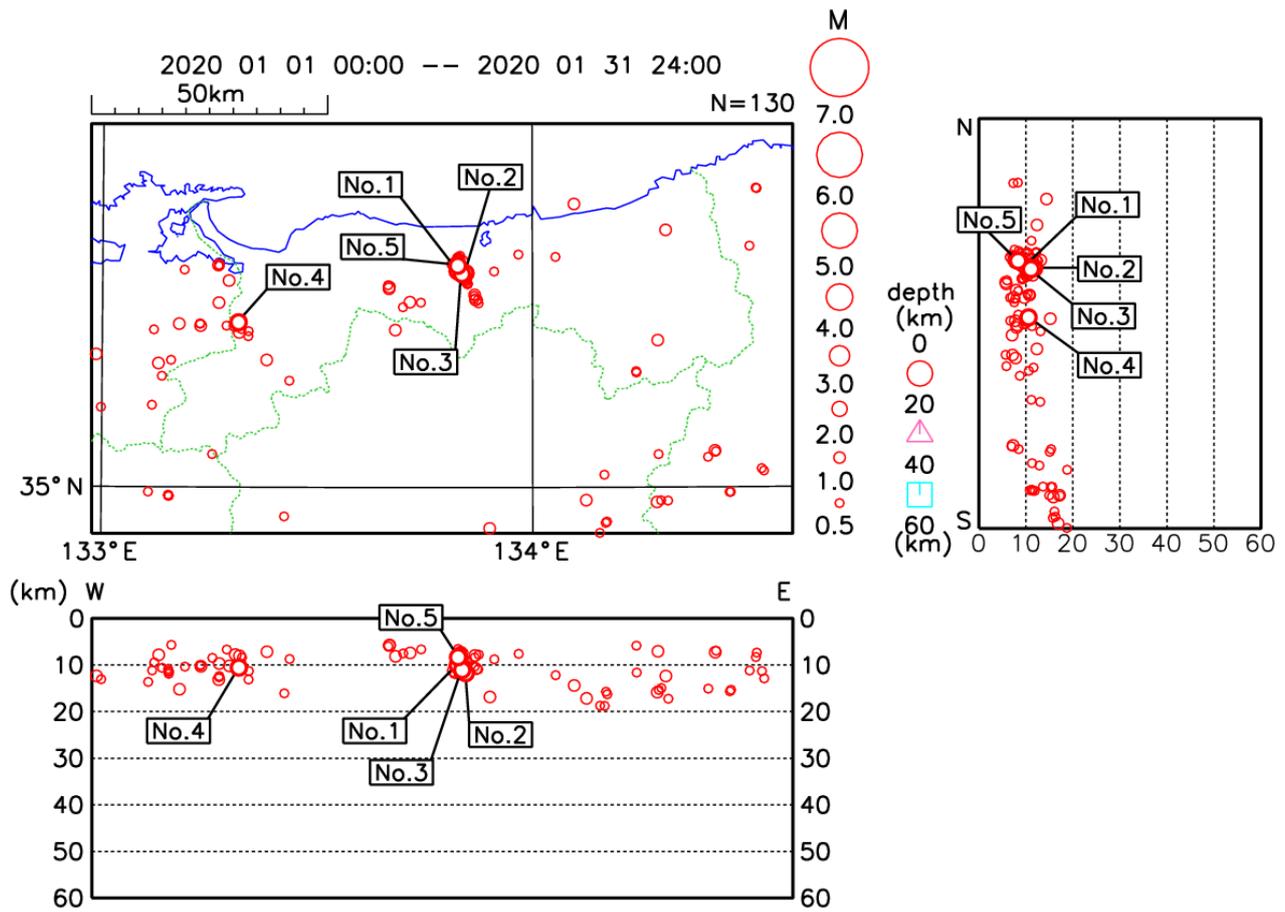
(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	2
(3) 地震・津波の知識	
大規模災害時、やむを得ない車中泊への備え	2

- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。
- ・本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがある。

* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。
大阪管内地震活動図URL <https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動

[震央分布図・断面図]



[概況]

2020年1月に鳥取県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした（先月は1回）。
上記震央分布図内において、M2.0以上の地震は5回（前月は3回）でした（番号は震源リストに対応）。

[震源リスト(震央分布図内のM2.0以上の震源リスト)]

期間 : 2020年1月1日00時00分～2020年1月31日24時00分
緯度 : 34° 55' ～35° 45' N 経度 : 133° 00' ～134° 40' E
深さ : 0 km～60 km

No.	発震時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	マグニ チュード	最大 震度
1	2020年01月07日04時39分	鳥取県中部	35° 24.9' N	133° 49.5' E	10	2.0	—
2	2020年01月13日16時46分	鳥取県中部	35° 24.7' N	133° 50.6' E	12	2.3	—
3	2020年01月14日20時21分	鳥取県中部	35° 24.6' N	133° 50.1' E	11	2.3	—
4	2020年01月29日00時39分	鳥取県西部	35° 19.0' N	133° 19.0' E	11	2.0	—
5	2020年01月29日04時49分	鳥取県中部	35° 25.5' N	133° 49.5' E	8	2.1	—

(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震

2020年1月に鳥取県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

(3) 地震・津波の知識

大規模災害時、やむを得ない車中泊への備え

いつ、どこで起こるか分からないのが地震です。突然大きな地震に襲われ被災した場合、車中泊を余儀なくされることがあるかもしれません。

平成28年(2016年)熊本地震(以下、熊本地震という。)では、地震活動による家屋倒壊の恐れや避難所生活のストレス、ペットがいるなどの理由から車内に寝泊りしながら避難生活を送る方が多数いました。狭い車内で寝泊りするなどの避難生活を続けると血行不良のため、エコノミークラス症候群になる危険性が増すとされています。毎日新聞(平成30年1月4日)によると、熊本地震による直接的な死者は50名ですが、その4倍にあたる200名の方が災害に関連して亡くなり、そのうち59名の方が因果関係は不明ながら車中泊の経験があったとされています。

車中泊については、車中泊避難者の状況が把握できない、物資や食料の配給などの支援が困難になるなどの問題が熊本地震の被災自治体から指摘されています。また、平成28年5月の国会では車中泊を前提とした防災計画に関する質問に対して、政府から次のように答弁されています。

『「防災基本計画」(平成二十八年五月三十一日中央防災会議決定)においては、車中避難

※エコノミークラス症候群の予防のため(厚生労働省ホームページより引用)

【エコノミークラス症候群とは】

食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり血液が固まりやすくなります。その結果、血の固まり(血栓)が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。

【予防のために心掛けると良いこと】

予防のためには、

- (1) ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
- (2) 十分にこまめに水分を取る
- (3) アルコールを控える。できれば禁煙する
- (4) ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない
- (5) かかとの上げ下ろし運動をしたりふくらはぎを軽くもんだりする
- (6) 眠るときは足をあげる

などを行いましょう。

予防のための足の運動



者に相当する者に係る措置を直接的に明記してはいないが、車中避難者は同計画の「やむを得ず避難所に滞在することができない被災者」に該当するものであり、車中避難者も含めて、同計画において、「市町村（都道府県）は、やむを得ず避難所に滞在することができない被災者に対しても、食料等必要な物資の配布、保健師等による巡回健康相談の実施等保健医療サービスの提供、正確な情報の伝達等により、生活環境の確保が図られるよう努めることとする」としているところである（衆議院 答弁書一部抜粋）。』

今後、大規模災害が起これば、プライバシーの確保や様々な理由によりやむを得ず車中泊を選択する人が多くなる可能性があります。いつ、どこで地震に遭遇するかわかりません。そのときの状況によって、やむなく車中泊になることを考えてエコノミークラス症候群の予防方法を知っておく、車中泊マットなどの防災品を車内に準備しておく、また、実際の車中泊時は自治体の支援活動にできる限り協力することが大切だと思います。

【出典】

- ※1 「平成 28 年度避難所における被災者支援に関する事例等報告書 平成 29 年 4 月」（内閣府）
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/index.html>
- ※2 「国会答弁本文情報」（衆議院）
http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_shitsumon.nsf/html/shitsumon/b190309.htm
- ※3 「深部静脈血栓症/肺塞栓症（いわゆるエコノミークラス症候群）の予防について」（厚生労働省）
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121802.html>

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和 2 年 1 月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

防災機関・教育機関等で地震・津波に関して詳しくお知りになりたい場合は、鳥取地方気象台まで連絡をお願いします。気象台から講師を派遣（出前講座）します。詳しくは鳥取地方気象台ホームページ「見学、出前講座のご案内」をご覧ください。

URL https://www.jma-net.go.jp/tottori/kengaku_demae.htm

出前講座問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857-29-1312